

2017年11月29日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

1964年東京オリンピック・パラリンピック参加国の選手団をサポート トップ通訳として見た「東京オリンピック」 島田 晴雄 氏 スペシャルインタビュー 公開

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する、笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区 理事長：渡邊一利 以下：SSF）では、スポーツの価値や意義を検証し、あるべきスポーツの未来について考える機会として、日本のスポーツの歴史を築かれた方々へのインタビュー記事「スポーツ歴史の検証」（<http://www.ssf.or.jp/history/tabid/811/Default.aspx>）を連載しています。

今回ご登場いただくのは、1964年、慶應義塾大学4年生時に東京オリンピック組織委員会の上級通訳を務めた島田晴雄さんです。

各国の選手団を迎えながら体験された当時の国際情勢やオリンピックの舞台裏、そして今の時代に開催するオリンピック・パラリンピックの意義などについてお話いただきました。また、高校時代からつきしだった英語を、オリンピック通訳担当の中でもトップ10人に選ばれるまでに上達させたエピソードも見どころです。

笹川スポーツ財団 スペシャルサイト『スポーツ歴史の検証』 第65回 トップ通訳として見た「東京オリンピック」 島田 晴雄 氏

スポーツ歴史の検証 で検索ください！

【URL】 <http://www.ssf.or.jp/ssf/tabid/813/pdid/261/Default.aspx>

【主な内容】 オリンピックの通訳担当に学生を採用した時代／トップ中のトップ通訳10人に選抜／英語漬けの日々で「I shall return」宣言を実現／参加を許されなかったインドネシア選手団／チャスラフスカとディスコでダンス／秘密経路で間に合った水泳800mリレー銅メダルの瞬間 など



開会式当日に帰国するインドネシア選手団

島田 晴雄（しまだ はるお）氏

経済学者。現在、首都大学東京理事長、慶應義塾大学名誉教授。慶應義塾大学4年生時に1964年東京オリンピックの通訳を担当。同大修士課程修了後にアカデミックの道へ。同大教授を務めたのち、マサチューセッツ工科大学訪問教授、東京大学先端科学技術研究センター客員教授、富士通総研経済研究所理事長などを歴任。

インタビューアー 佐塚 元章（さづか もとあき）氏

NHK の元チーフアナウンサーで、現在はラジオアナウンサーなどを務める。1992年バルセロナオリンピックの開会式、岩崎恭子の最年少金メダル獲得（水泳）などの実況をはじめ、スポーツ実況を25年間担当した。

<スポーツ歴史の検証> 概要

【企画制作】公益財団法人笹川スポーツ財団

【後援】スポーツ庁、東京都、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本オリンピック委員会ほか

【特別協力】株式会社アシックス

この件に関するお問合せ先
笹川スポーツ財団 経営企画グループ：古坂（ふるさか）
TEL：03-5545-3301 info@ssf.or.jp